

第 128 号



副会長挨拶
三河女性役職者会会長挨拶
研究校紹介(刈谷支部)
私の研究(新城支部)
教室の窓から(高浜支部)
私のコレクション(みよし支部)
研修会・研究会の報告
今後の研究会のご案内



「深い学び」の姿とは

三河教育研究会 副会長
宮崎正道



「『深い学び』とは、どのような状態を指すのだろうか」

過日、開催された東海北陸中学校長会研究協議会のグループ

討議の中で、この極めて基本的で、かつ重要な課題に対する

答えに窮しました。来年度から本格実施される学習指導

要領の授業改善の柱として、「主体的・対話的で深い学び」

の実現という理念が示されています。子ども

も自らが、課題意識をもって学習に取り組む「主体的な学び」、友達などとの

やりとりを通して学び合う「対話的な学び」は、具体的な子どもの姿をイメージ

しやすく、その活動の様子も見とりやすいのに対し、最も重要である「深い学び」

については、討議を重ねても、なかなかイメージがまとまりませんでした。それは、「深い学び」が、子どもの内面で進むと同時に、「深い」という言葉の受け止め方が、人によってそれぞれ異なっていることも、具体像がとらえにくい一因

となつていふと思えます。「主体的な学び」「対話的な学び」は、「深い学び」に至る方法であることは間違いありませんが、それぞれ単体では、必ずしも「深い学び」と言える状況にならないのもやっかいです。

このイメージしにくい「深い学び」を理解するには、実際の授業の中で、具体的な子どもの姿を通して捉えることが一番の近道です。しかも、その授業は、単元全体とともに本時過程もよく練られ、優れた指導力に基づく授業でこそ、「深い学び」の姿が見られると思えます。その一助となるのが、三河教育研究会が主催する「授業力養成講座」でありたいと願っています。毎年、三河各地を巡回して行われるこの講座は、三河各地の経験と実践に優れた授業者の授業と、その分野に優れた助言者により、これまで大きな成果を生んできました。本年度も、東西三河地区で一〇〇名を越す希望者が受講しています。来年度は、我が地元・豊橋市でも開催が予定されています。新学習指導要領で示された「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という三つの視点を押さえた優れた授業と的確な指導助言を通して、私に答えに窮した「深い学びの姿」が明らかになることを楽しみにしています。

「新たな社会」を生き抜く子どもたちのために

三河女性役職者会 会長
長谷川和美



いよいよ次年度より、小学校では新学習指導要領の全面实施となり、それに伴って五・六年生の

外国語、三・四年生の外国語活動と並んでプログラミング教育が導入されます。

世の中は狩猟社会↓農耕社会↓工業社会↓情報社会という今までの四段階の時代を経て、「新たな社会」(Society 5.0)

に突入します。膨大な情報に翻弄されることなく、人が必要

なモノを必要な時に入手し、経済発展と社会的課題の解決の両立を試みる社会となります。難しい話かと考えがちですが、ここで重要なことは、この「新たな社会」はあくまでも人間中心の社会だということ

です。めまぐるしく変わる社会に対応できる人間を、学校の中で育てていかなければなりません。

今、縁あって特別活動の研究に携わっています。こうした社会への対応力(生きる力)を育てるには、人と関わりながら様々なことに挑戦し、時にはうまくいかないことを経験するなどの豊かな体験

活動が何より重要であると痛感しています。本校では、運動会が六年生と五年生が一对一で師匠と弟子の関係を結び、ソーランを教え、踊り継いでいます。普段の生活では教えられる側に立つ子どもも、このときばかりは師匠となって、弟子にソーランの踊りを伝授することになります。特別支援学級の子どもも、師匠という立場を経験します。当然のことながらうまくいかないことも多いのですが、何とか乗り越え、当日の運動場には満足気な表情が溢れます。異学年交流をすることによって、結果的に子どもたちの潜在的な力を引き出すケースは多いよう

です。「働き方改革」が声高に叫ばれて久しい学校現場では、学校行事の精選をはじめとする年間計画の見直しが急務とされています。管理職は、先生方の負担軽減を一番に考えなければなりません。ですが、闇雲に何でも割愛することは全く話が違います。子どもたちの成長のために、必要なモノを効率よく残していかなければなりません。それは私たちの多くが分かっています。「新たな社会」を人間中心にうまく回していくためにも、学校生活の中で人と人が直に触れ合う活動を保証しなくてはなりません。教職員が心を一つにし、未来を担う子どもたちのために切磋琢磨していかなくてはと感じています。

研究校紹介

共に学び合う授業の創造

―仲間とかかわり合いながら生きる力を育む道徳の授業―

刈谷市立衣浦小学校

本校は、平成十六年度から前田勝洋先生の指導の下、子ども同士・教員と子ども・教員同士が「共に学び合う授業」を軸としつつ、学級経営を母体とする授業研究に取り組んできました。二年前からは道徳の授業を工夫していくことで、自他を認め合い、共に高め合いながら生きる力を育むことができるのではないかと考えて、「共に学び合う授業の創造」仲間とかかわり合いながら生きる力を育む道徳の授業」をテーマに、今秋の発表に向けて研究を進めています。



「ふき出しボード」を使って意見交流

児童が主体的に考えることができるような「考え、議論する道徳」の授業実践を意識して、各教員が資料の精選や発問の工夫など、より焦点化した授業を展開できるようにしてきました。発言者のつなぎ言葉や聞く側の反応も大切に、板書や学習形態にも工夫をしています。また、本校は日々の清掃をはじめとした縦割りの活動を通して、上級生と下級生が互いにかかわることで、協力・感謝・礼儀を学びながら自己の役割を自覚していくことに力を入れています。そこで、昨年度からは異学年間での子ども同士の授業参観も行っています。これは、子どもが自らの学びを自覚する場となると同時に、子どもだけでなく教員間の共通理解や協力体制がより高められる結果となりました。

さらに、道徳の授業の様子を学年・学級便りに積極的に載せ、記録した学びを家庭に持ち帰り、保護者からコメントをもらうことで、家庭も巻き込んで子どもの成長を見守る環境を整えています。今後も子どもたちと共に研究を進めていきたいと思っています。

私の研究

主体的・対話的に文学を読み深め、主題に迫る生徒の育成 ―「ラウンドスタディ」を活用した実践を通して―

新城市立千郷中学校 今泉 匡博

一 はじめに

「主体的・対話的に深い学び」の実現に向けて、生徒同士が学び合い、深め合う場を意図的に設定する必要性があるのではないかと感じ、「ラウンドスタディ」を用いて、本研究に臨みました。題材は、中学一年国語「星の花が降るころに」(光村図書)です。

(6)まとめ短冊を黒板に貼ります。
(7)各グループは発表者を決め、全体の場で一分程度まとめの発表をします。
(8)黒板を眺めながら、思ったことを全体で共有します。

三 実際

主人公である「私」の気持ちについて、各場面で読み取りを進めました。そして、単元のまとめとして、「この物語の主題とは何か」をテーマに「ラウンドスタディ」を行いました。生徒たちは、伸び伸びと意見を出し合いました。普段意見がなかなか言えない生徒も、ホストが優しく声をかけることで、小グループ内で意見を伝えることができました。

二 「ラウンドスタディ」とは「ラウンドスタディ」は、「ワールドカフェ」の手法を、教員研修向けに改良したもので、席替え意見交流のことでです。それを国語の授業で生かせないかと考え、次のように進めました。

四 おわりに

「ラウンドスタディ」を通して、主体的に学ぼうとする生徒の様子が見られました。今後はさらに読みを深めるための手立てとして、研究を重ねていきたいです。

- (1)各グループに模造紙とペン四色とまとめ短冊を用意します。
- (2)ホスト(＝進行役)を決め、模造紙にテーマを書きます。
- (3)一回目の意見交流をします。ホストは、意見を模造紙にメモしていきます。席替えごとにペンの色を変えていきます。一回の意見交流は三分間です。
- (4)ホスト以外が席替えをして、二回目・三回目の意見交流をしていきます。
- (5)自席に戻って、模造紙を見ながら各グループのまとめをします。模造紙の記録をもとに、テーマに即した言葉を選び、まとめ短冊に書きます。



「ラウンドスタディ」をする生徒

教室の窓から

自ら学び、自らの考えを深める
子どもの育成
自らの考えを深め続ける授業を
目指して

高浜市立港小学校

田中 智恵

本校には、高浜市の自慢である「かわら」や「焼き物」をモチーフにした卒業制作が、学校の随所で見受けられます。また、衣浦湾に近いため、「しおかぜタイム（総合的な学習）」「しおかぜ集会」「しおかぜ広場」などのネーミングにも、地域の特徴を生かしたものが多いです。

授業では、自分の考えと人の考えを比べたり、関連付けたりする必要をもたせることで、新たな考えに気付き、自分の考えを深めることを目指しています。

五年生の社会科「寒い地方とあたたかい地方」の授業では、「校長先生夫妻が定年退職後に移住される計画ですが、沖縄の那覇か北海道の旭川か、迷っています」と、疑似設定をし、動機付けの工夫をしました。追究課題が明確で、子どもの思考がつながりながら、心動く魅力的な学習展開となりました。

子どもたちは北海道チームと沖縄チームに分かれ、校長先生夫妻の思いや願いを踏まえ、それぞれの地方の気候や特色、おすすめポイントについて調べたことを発表し、次のように質問し合いました。



沖縄チームの発表を聞く子どもたち

沖縄チームからは、「沖縄は台風が多いと言いますが、北海道も地震が多いですよね」「北海道の家は寒さ対策で費用が高いのでは？」と。北海道チームからは「沖縄は意外と涼しいとはどういうことですか」「沖縄の水族館の見所は？」と。子どもたちは、分かる範囲内で答えたり、「調べてきます」と答えたりしました。

終盤、「日本一が多いだけで、校長先生は来ないと思います」という意見では、一瞬、空気が変わりました。「あっ、校長先生夫妻の思いや願いに立ち返らなければ」と、誰もが思った瞬間でした。

このように対立意見をもつ子ども同士がかかわり合うことで、子どもたちは新たな課題に気付きました。追究課題を明確にし、相手チームだけでなく、校長先生夫妻を納得させるだけの根拠を準備することで、自分の考えを深めることにつながった授業でした。

私のコレクション

グローバルな感性を育てる

みよし市立中部小学校 水野 克弘

アメリカ合衆国インディアナ州に、本市の友好都市であるコロンバス市があります。みよし市がコロンバス市と友好都市交流を始めたのが一九九五年、以来二十年以上にわたり、中学生派遣などの交流が続いています。私もこの交流を通して、中学生とともにコロンバス市を訪問させていただいたことが幾度かあります。そして、本市とコロンバス市の中学生が笑顔で様々な交流をしている様子を見るたびに、互いに顔を見ながら、触れ合って存在を感じながら行う交流の意義の大きさを感じてきました。

私の専門教科は、英語です。中学生のころにテレビで何気なく見ていた映画の台詞に学校で習った表現が使われており、「学校で習うことって使えるんだ」と思ったことが、私の英語学習の本当のスタートだったことを今でも覚えています。教師になってからは、英語でコミュニケーションをとることや世界の様々な国の文化や生活習慣、ものの考え方などを知ることの楽しさを、子どもたちに何とか伝えようと頑張ってきました。



交流への思いの詰まった贈り物

「教師の主体性と創造性をもった授業実践」

—令和元年度 研究大会・夏季研修会を終えて—

総務委員会

総務委員会では、五月十日の定期総会以降、役員会・常任委員会を開催し、常任委員会の活動計画や各部会・各委員会の夏季研修会等の充実について、協議を重ねてきました。

本年度は、夏季休業中に十七の研究大会・研修会が開かれました。子どもが主体的に学ぶことのできる授業を目指し、自分自身、あるいは学校における授業改善のヒントを得ようと活発な議論が展開されました。秋以降には六つの研究大会が計画されています。研究大会・研修会で提案された指導案は、ホームページに掲載していきます。

また、授業力養成講座Ⅰを、西三河は八月二十日に豊田市教育会館にて、東三河は八月二十一日に蒲郡市民会館にて開催しました。約一二〇名の受講者が集い、熱心に研修が進められました。

研究大会や研修会、授業力養成講座での学びが、これからの三河教育の推進に生かされることを期待します。

なお、研究大会・研修会の運営に際し、関係市町村教育委員会・関係機関の方々にご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

部会・各種委員会

研修会・研究会の報告

国語

生きてはたらく言葉の力を育み、深く学び合う授業

令和元年度 国語部会夏季研修会
期日 八月八日(木)
場所 蒲郡市民会館
参加者 三百二十三名
講演 「自作を語る」
講師 童話作家 茂市久美子 氏

午前の分科会では、研究テーマ「生きてはたらく言葉の力を育み、深く学び合う授業」に沿った実践について提案がなされました。協議会では、子ども同士が互いに深く学び合う授業づくりをどのように行うべきか、提案者の確かな実践をもとに、活発な議論が展開されました。

午後の講演会では、茂市久美子氏を講師にお迎えしました。講演では、小学三年の国語の教科書に掲載されている「ゆうすげ村の小さな旅館」に関するお話も含めた全十作品に関して、どのように物語が作られたのか、その背景や思いについて語られました。その中で、ご自身の経験や人生観がそのまま創作へとつながっているというお話があり、茂市作品の温かさの理由を知ることができました。



講演される茂市久美子氏

学び多き一日に

新城・千郷中 金田 茂己

午前中の分科会では「中学校・読む」に参加しました。話し合い活動における教師の役割について議論が交わされました。実践の中で、どのような教師の出が、生徒の深い学びや目標の到達につながる可能性があるかを考えていくことが、大切であることに気づかされました。

午後の講演会では、「ゆうすげ村の小さな旅館」の作者でもある茂市久美子さんに出会い、心に響くお話を聞きました。特に創作の裏側を教えてください、書くことの楽しさを感じました。今日学んだことを生徒たちの力を伸ばすことに繋げていくことを絶えず模索していきます。

書写

令和元年度 書写実技講習会
期日 七月二十六日(金)
場所 岡崎市竜美丘会館
参加者 五十三名
講演・実技講師 岐阜女子大学 教授
中根 海童 先生

深い理解を指導に生かす

みよし・南部小 笠井 愛

今年度の実技講習会は、前半に「書写」教科書の変遷についての講演、後半に書き初めの実技講習という内容で行われました。「筆を立てる」という指導の原点と、現在に息づく指導の根柢を興味深く学びました。実技講習では、海童先生自ら机間指導をしてください、穂のS字形の作り方をはじめ、書写指導の方法や筆の持ち方など基本的な質問にも目の前で実演しながら丁寧に答えいただきました。参加者それぞれに合わせた助言をしてくださり、これからの指導への自信につながる充実した時間となりました。講習に参加したからこそ学べたことが多くありました。



書写実技に取り組む様子

算数・数学

主体的・協働的に学ぶ

算数・数学教育の実践

令和元年度

算数数学部会夏季研修会豊橋大会

期日 八月六日(火)

場所 ライフポートとよはし

参加者 五百三十八名

講演 「数学的に考える資質・能力を

育成する授業のために

―『数学的な見方・考え方』の

見方・考え方―

講師 筑波大学 人間系 教授

清水 美憲 先生

令和元年度三河教育研究会算数数学部会夏季研修会豊橋大会を、ライフポートとよはしにて開催しました。

午前は、小中学校あわせて十二の提案を六分科会に分かれて協議しました。それぞれの分科会で、「主体的・対話的な学び」「深い学び」「数学的活動」などをキーワードに各地域の実践が提案され、活発な協議が行われました。また、愛知教育大学の先生方から、それぞれの実践に対してご助言をいただき、充実した研修の機会となりました。

午後からは、筑波大学人間系の清水美憲先生より「数学的に考える資質・能力を育成する授業のために」という演題でのご講演をいただきました。数学的な見方・

考え方を働かせる授業にするために、授業をどう改善していくとよいかについて、具体例を挙げながらご指導をいただきました。



講演される清水美憲先生

得たことを目の前の子どもたちへ

豊橋・東陽中 竹田 雅亮

分科会では、児童・生徒にとって、身近で魅力的な単元設定について、各地区の先生方から学ばせていただきました。講演会では、これから特に求められる「見方・考え方」の話のなかで、ノートや振り返りの記述について新たな考え方に触れることができました。

この研修会で得たことを、夏休み明けから、自身の実践に取り入れ、目の前の子どもたちに還元していきたいと思えます。

音楽

豊かに感じ 表現する子

とともに学び、ともに楽しむ音楽の授業

令和元年度 音楽部会夏季研修会

期日 八月二日(金)

場所 豊田市能楽堂

参加者 百七十名

研修会 「実感を伴った合唱指導」

講師 作曲家 三宅 悠太 氏

本年度の研修会では、作曲家の三宅悠太氏をお招きし、各学校での合唱指導にすぐに生かすことのできる、歌い方や楽曲分析のポイントを学びました。

新任の先生から、経験を積まれてきたベテランの先生まで多くの先生方が参加されました。三宅氏の作曲された楽曲に込められた意図を、表現方法とともに知ることができ、貴重な機会となりました。

また、普段感覚的に行っている歌い方を、具体的な言葉にしたり図や文字で示したりして説明していただき、参加者が、歌う際の口の形や息遣いなどを深く理解することができました。参加



三宅氏の指揮で合唱する参加者

者が生徒役となり実際に歌う際には、三宅氏の言葉がけ一つで歌声が大きく変わることを体感しました。演題の通り、実感を伴いながら合唱指導の在り方を学ぶことができました。

参加者からは「感覚を言葉に変える大切さや言葉の選び方など、勉強になった」という声が多く聞かれました。普段の授業だけでなく、文化祭や学芸会、卒業式といった場面でもすぐに生かせる合唱指導のポイントを学ぶことができた研修会となりました。

実感を伴った授業を目指して

岡崎・南中 坂井 滉平

三宅氏の曲を歌いながら、楽しく分かりやすく歌唱のポイントを学ぶことができた研修会でした。その中で、「語感を大切にして歌う」ことを意識させるための手立てを覚えていただきました。

フレーズの最初を大切に歌うために母音を長くすることや、さまざまな音色を使い分けるために、息の量や口の開き方をどのように組み合わせたらよいのかなど、実際に歌いながら学ぶことができました。

この研修会を通して教材研究が非常に大切だと改めて感じました。「今日はこれができるようになった」と、子どもたちが実感をもって学ぶことができるような授業を目指していきたいと思えます。

造形

子どもの思いが広がる造形教育

～見方・考え方を広げた～
造形部会夏季研修会

令和元年度 造形部会夏季研修会

期 日 八月二日(金)

場 所 愛知芸術文化センター

参加者 六十八名

講 話 「能動的な鑑賞者とは？」

受け取る、深める、作り出す」

講 師 ラーニングキュレーター

会田 大也 氏



対話型鑑賞について説明する会田氏

本年度は、三年毎に行われ、四回目を迎えた国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」において、視察研修を行いました。はじめに、ラーニングキュレーターの会田大也氏の講話を聴きました。現代美術の特徴、対話的鑑賞という手法など、例を挙げてわかりやすく説明していただ

きました。鑑賞者が作品を観て、考え、対話したり、表現したりすることで、初めて作品が価値をもつのであり、他人の話聞いて、自分も変化することを恐れないことが大切であると教えていただきました。

また講話の後には、実際に会場に赴き、作品を鑑賞しました。参加者からは、現代美術にも触れることができ、また今後の鑑賞教育の参考になったとの声を多数いただきました。

新たな価値との出会いを楽しむ

豊橋・南陽中 鯨 りつ子

会田さんのお話の中で、「アートの解釈には、人と話をするのが大事」「その前に自分の中で考えをまとめる作業が必要」、「解釈には正解はなく、見る側が多様な価値を見出せる」、「作者の制作意図は事実ではない」という言葉が印象的でした。

講話を聴いた後、トリエンナーレを視察しました。インパクトのある数多くの作品を前に、社会問題やその国の情勢、人間関係、環境問題など様々な視点で考え、感じたことを互いに話し合いながら、楽しく鑑賞しました。

今回の研修では、「対話的で深い学び」につながる主体的な鑑賞のヒントを得ることができ、また、新しい価値に出会える現代美術の奥深さを改めて実感し、見方・感じ方を広げることができました。

保健体育

仲間とともに課題を見付け、解決しながら学びを深めていく体育学習(二年次)

令和元年度 保健体育部会夏季研修会

期 日 八月七日(水)

場 所 豊田市福祉センター

参加者 二百八十四名

講 演 「二〇二〇東京五輪を迎え、今、

アスリートやスポーツから

学ぶこと」

講 師 中京大学 教授

高橋 繁浩 先生



講演される高橋繁浩先生

講演では、高橋繁浩先生より、トップアスリートの事例を交え、「世界の動き(目標)を見据えた教育と人材育成」「スポーツの在り方を変える、指導者が変わること」のキーワードをいただきました。参加者からは、「我々が固定観念を打破することで子どもの力を引き出し、躍進につなげていきたい」という声が聞かれ、実りの多い講演会となりました。

研究協議

会においては、荻谷小の高橋先生「課題解決に向けて仲間と主体的に活動するソフトバレーボールの実践」、蒲郡中の稲石先生「課題を見付け、解決に向けて主体的に活動することをねらったハンドボールの実践」が提案されました。参加者は、自分の実践と照らし合わせながら熱心な討議を行いました。助言の先生からは、誰もが楽しめるゲーム等、深い学びのヒントをご示唆いただきました。

保健体育部会夏季研修会に参加して

豊田・浄水北小 長沼 昇

中京大学教授、高橋繁浩先生のご講演から、指導者自身が変わる必要があることを学びました。スポーツ界だけでなく教育界でも、これまでの固定観念が、子どもたちの想像力や広い考え方を抑圧することになってしまっています。指導者である教師が固定観念を打破し、これまで当たり前だと思われてきたことを見直し、Y(やれば)D(できる)K(子)を育てる指導を大切にしていきたいと思いました。

小学校部会では、課題の見つけ方や解決のための手立て、子どもたちが主体的に活動するための手立てについて協議しました。上原三十三先生のご助言から、戦術学習では、協力の仕方や自分の役割を理解させる必要性や、ゲーム自体が先生になり、子どもたちはゲームから教わるが多くあることを学びました。

技術・家庭（小学校）

豊かな心と実践力を育み、
未来を拓く家庭科教育

令和元年度 技術・家庭部会夏季研修会

（小学校家庭科部会）

期 日 八月七日（水）

場 所 幸田町民会館

参加者 百五十九名

指導講話 「人生一〇〇年代の

共生社会と家庭科」

講 師 愛知教育大学 教授

青木香保里 先生

研究発表では、碧南地区から、サツマイモを使ったオリジナルレシピ作りを通して、学校・家庭・地域の連携を生かした授業実践が報告されました。単元を通して、かかわり合いを多く取り入れ、対象となる相手や目的をはっきりさせることで意欲を継続させ、生活で生かす力もつけることのできた実践であり、参考となりました。また、豊橋地区からは、来年度の愛知県家庭科教育研究大会の開催に向け、『手縫いのよさがわかり、できるようにになった喜びを味わい、学んだことを生活に生かそうとする子の育成』について中間発表がされました。

指導講話では、三教研技術・家庭部会の常任講師の青木先生に、社会の流れから考えた家庭科教育の重要性について、多くのご示唆をいただきました。

変化する社会の中で生きていく子どもたちに、生きる力をつけていく必要性を実感することのできた研修となりました。



講演される青木香保里先生

夏季研修会を終えて

碧南・棚尾小 溝口 美穂

研究発表では、家庭や地域との連携を生かした家庭科の授業実践例の発表をしました。家庭や地域の人のためという思いを胸に、意欲的に課題解決をしていく子どもたちの姿を見ることができました。自分が役に立つ喜びを感じることで、さらに意欲を高め、継続的に生活の中で実践していけることがわかりました。今回の研修で学んだことを生かし、「自分で課題を見つけ、周りの人とかかわり合いながら、主体的・対話的に解決していく楽しい家庭科の授業」を考えていきたいと思えます。

道 徳

熱気あふれた

道徳部会夏季研修会

令和元年度 道徳部会夏季研修会

期 日 八月七日（水）

場 所 安城市文化センター

アンフォーレ

参加者 三百四十名

講演 「新しい道徳科に求められる

授業づくりと評価」

講 師 畿央大学大学院 教授

島 恒生 先生

はじめに、畿央大学大学院教育学研究科教授の島恒生先生にご講演をいただきました。考え、議論する道徳の授業づくりについて、児童生徒の発達段階や育成



講演される島恒生先生

すべき道徳性を踏まえ、具体的な教材をもとに中心発問を考えることを通して紹介いただき、大変有意義な時間となりました。

講演後は、四分科会に分かれ、活発な質疑応答および意見交換がなされました。小学校低学年部会では、「うそやごまかしをしないで、明るい心で楽しく生活しようとする子の育成」を目指した授業実践、中学年部会では、「自分の考えをもち、友達の考えを聞き、話し合うことで、高め合うことのできる子の育成」を目指した授業実践、高学年部会では、「自己の生き方について考えを深められる子の育成」を目指した授業実践、中学校部会では、「多様な価値観を認め合い、たくましく未来を生き抜く力を育む」授業実践が報告されました。今後の研究推進について、提案者の工夫あふれる実践と活発な協議により、実り多い研修会となりました。

道徳部会夏季研修会に参加して

安城・今池小 齋藤みゆき

今回の講演では、子どもが考え、議論する道徳の授業づくりについて学びました。

子どもが見方や感じ方、考え方を広げ、深めるための中心発問の考え方を紹介していただきました。また、道徳の授業は、子どもの心に育ってきているものに気付かせることを目標とする必要性を教えてくださいました。

特別活動

多様な他者と協働し、集団や社会に

参画する力を高める特別活動

～自主的実践的な集団活動を通して～(一・二次)



講演される京免徹雄先生

講演会では、京免徹雄先生よりお話をいただきました。キャリアを「決める時代」から、「つくる時代」へと変革していく中で、特別活動が果たす役割について、実践例を挙げながら講演いただきました。

令和元年度 特別活動部会夏季研修会
第六回愛知県小中学校特別活動研究大会
期 日 八月二日(金)
場 所 新城文化会館
参加者 百七十五名
講演 「合意形成と意思決定で
子どものキャリアを拓く」
――新時代における特別活動3・0の可能性――
講師 筑波大学 人間系 助教
京免 徹雄 先生

「特活の大切さを再認識した。より力を入れて行っていきたい」、「合意形成を行う中で一人一人が学級の一員であることを、より自覚できるようにしたい」など、学級づくりを生かしたいという声が多く集まり、大変好評な講演会になりました。

講演会後は、小中学校ごとに分科会を開催しました。四名の先生から提案をしていただき、活発な協議が行われました。参加された先生からは、「これまで子どもが振り返り、次に生かす機会をあまりつくってこなかった」、「級訓の活用や毎月の目標づくりなど、すぐに実践していきたいものがあつた」など、これまでの自分の活動を振り返り、二学期に実践したいといった内容の感想が多数寄せられました。先生方が本会で学んだことを生かし、子どもの成長につなげてほしいと思います。

集団だから発揮できる力を見て

西尾・矢田小 稲垣 満夫
今回の夏季研において、前任校での取り組みを発表する機会をいただくことができました。実践を思い返すと、互いの意見に耳を傾け合意形成をする姿や、集団として課題に向かつて力をつける姿、課題を解決し、達成感を得る姿などを見ることができました。これらの姿容する子どもの姿から、私自身も達成感を得られました。

今後、学校行事や学級活動を中心に、子どもが主体的・対話的で深い学びができるように支援していきたいです。

特別支援教育

一人二人の教育的ニーズに応じた

教育のあり方をめざして



講演される多久島睦美氏

前半の講演会では、講師の多久島睦美氏から「障害の特性を踏まえ、その子に寄り添った支援の在り方」、「子どもの将来を見据えて大切にしたいこと」という二つの視点で、たいへん示唆に富むお話をいただきました。

令和元年度 特別支援教育部会夏季研修会
期 日 八月二日(金)
場 所 パティオ池鯉鮒
参加者 四百六十四名
講演 「子どもの思いに寄り添う支援
～将来を見据えて
大切にしたいこと～」
講師 全国LD親の会副理事長・
あいちLD親の会かたつむり副代表
多久島睦美 氏

をいただきました。発達障害のある子どもたちは、私たちが「できて当たり前」と見過ごしている教育の盲点を気づかせてくれる存在であることを改めて意識することができました。

後半は、七つの分科会に分かれ、提案者の先生方から、明日からの実践にすぐ生かすことのできる発表がありました。また、グループ討議では、各分科会のテーマに沿っての意見交換や、先生方が日頃取り組まれている課題やその対策等についての情報交換がなされました。

「自己理解」を深め、

自信がもてる特別支援教育

刈谷・衣浦小 土居 恵子

「何回言ったらわかるの!」は禁句です。何回も言わないと伝わらない言い方をしている大人の方が問題です。」という多久島睦美氏の言葉に、はっとしました。

発達障害のある子どもにも分かるように教えようと、教師が努力すること、子どもが安心して学びに向かうことができると感じました。そのためにも、生活の中で役割を与え、丁寧に体験をさせることで、自己理解が深まり、自分に自信がもてるように支援していきなさいと思います。様々な刺激や環境、コミュニケーションの中で不安や混乱と格闘している子どもたちが、特性を才能につなげていけるよう真摯に子どもと向き合いたいと思います。

養護教諭

養護教諭の資質向上と

健康教育の推進

令和元年度 養護教諭部会夏季研修会
期 日 八月二日（金）

場 所 蒲郡市民会館

参加者 四百五十四名

講演 「児童生徒の学級・学校適応感を
高める保健室での支援」

―自尊心・ソーシャルスキ
ルに焦点を当てて―

講師 名城大学 教職センター 教授
曾山 和彦 先生



講演される曾山和彦先生

実践発表
では、豊田
市養護教諭
部会が、「学
校の危機管
理能力を向
上させるた
めの養護教
諭の役割の
追求―危険

を予測して行動できる児童生徒・教職員を
めざして―と題し発表しました。市内養
護教諭が連携し、危険予知トレーニングや
コミュニケーション研修等の実践を通して得
られた、児童生徒、教職員の意識と行動の
変容、成果を発表しました。

幸田町養護教諭部会は、「学校・家庭・

地域で育てる心身ともにたくましい幸田っ
子―学校・家庭・地域が連携した健康教育
を通して―と題し誌上発表をしました。

町内共通の生活チェック（こうした健康マイ
レージ）の取組や肥満個別指導等、学校・
家庭、地域で連携した実践を紹介しました。

調査研究発表では、「養護教諭が取り組
むがん教育の在り方」と題し、がん教育に
関する養護教諭の実態調査の結果と課題に
ついて報告がありました。その後、常任講
師の愛知教育大学准教授の山田浩平先生か
ら、助言及び講評をいただきました。

講演会では曾山和彦先生から、自尊心
やソーシャルスキルを育むことの重要性、
養護教諭の役割についてお話いただきまし
た。個に対する言葉かけの技やソーシャル
スキルトレーニングの方法について、演習
を交えて具体的に講演いただき、学びの
多い研修となりました。

夏季研修会に参加して

豊田・青木小 田中 愛子

実践発表から、様々な立場の人が子
どもにかかわり、同じ思いを持って働
きかけることへの重要性を学びまし
た。

曾山先生の講演では、アドジャンの
演習を交えてお話していただき、自己
理解について学ぶことができました。
豊田市の養護教諭として、今回学ん
だことを取り入れ、今後も学校全体の
危機管理能力の向上を目指していき
たいと思います。

総合的な学習

自ら探究し、協働的に学び合う

総合的な学習の授業（三年次）

令和元年度

総合的な学習部会夏季研修会

期 日 八月六日（火）

場 所 安城市文化センター

参加者 百六十三名

講演 「Society 5.0 時代に向けた
総合的な学習の課題と期待」

講師 鳴門教育大学 副学長
西村 公孝 先生



講演される西村公孝先生

西村先生
は、ご講演
の中で、二
〇四〇年に
向けての社
会の課題か
ら、これか
らの時代に
求められる総合的な学習の時間の在り方
についてお話をされました。新しい学力
観の理念を確認するとともに、今後、子
どもたちの「想像力」と「創造力」を育
てる学びに変換することの大切さにつ
いて解説をしていただきました。

その後、五つの分科会に分かれて、地
域教材などをテーマにした十地区からの
実践が提案されました。それをもとに分
科会ごとに協議が行われました。各分科

会に参加してくださった方々を含めた熱
心な意見交換や、助言者の先生のご助言
により、充実した時間を過ごすことがで
きました。

夏季研修会に参加して

豊橋・東部中 荻野 将輝

「探究的学習」が新学習指導要領で
強調されています。今回参加した分科
会では、「主体的・対話的で深い学び」
を行い、「探究的学習」に近づく実践
について学ぶことができました。

最初の実践は、特別支援学校での交
流体験から、中学校で行う交流会を企
画する単元でした。特別支援学校の生
徒の個性を理解し、一緒に楽しむ企画
を真剣に考え、準備していく姿が見ら
れました。友達の意見に耳を傾け、協
働しながら対話的で深い学びを展開す
る実践でした。

次の実践では、自己の生き方を考え
るキャリア教育を題材に取り上げてい
ました。多くの生徒は、お金のために
働くという考えでした。そこで、働く
ことの楽しさを追究することで、人の
ために働く価値観などに気づくことが
できました。この実践では、将来の
職業を自分事としてとらえ、切実感を
もった主体的な深い学びを展開する実
践でした。

今後、課題が自分事になり、他者と
関わりながら「探究的学習」を行う単
元を考えていきたいと感じました。

学習情報

ネットワーク社会におけるメディアと
ヒューマンコミュニケーション

令和元年度 ICT活用研究会

期 日 八月二日(金)

場 所 岡崎市ビビックセンター

参加者 二百三十名

提案者および発表テーマ

①「社会科の授業にどうやってテレビ番組を利用するか」

豊川・御油小 米澤 好生 先生

②「仲間と協働して体験的な活動に取り組み、課題解決を通して情報システム技術のよさを実感する生徒の育成」

北設・豊根中 佐々木裕直 先生

③「ICTを活用し、生徒が自ら見方・考え方を働かせて、音楽を味わい楽しむ合唱の授業」

岡崎・竜南中 中山美奈子 先生

④「人間性豊かな子どもを育てる情報教育の追究」

安城・祥南小 太田 真生 先生

⑤「プログラミング的思考力の向上を図る授業展開」

知立・八ツ田小 山口 良 先生

助言・講評

岡崎市立竜谷小学校長

森 竜師 先生

各地区から、ICT機器を活用した授業実践や自作教材の開発など子どもの実態に即した授業実践が発表されました。発表後

の研究協議

では、発表

者と参加者

の具体的な

内容の意見

交換が行わ

れました。

助言者の

森先生からは、五つの提案それぞれの確

なご助言をいただきました。また、日々の

授業づくりについて、子どもの実態をとら

えて設定した目標を達成するために、ICT

T機器を手段として活用するということ、

さらにその過程で、これまでの授業の在り

方を見直し、新しい授業づくりをしていく

ことの大切さを教えていただきました。今

後の実践に役立つ研修の機会となりました。

ICT活用研究会に参加して

知立・八ツ田小 山口 良

本研究会では、タブレット等のICT機器の活用の仕方やプログラミングの題材を扱った実践報告が行われました。実際にプログラミングを行う児童・生徒の実践を見て、子どもたちの可能性の広がりを感じました。

来年度からプログラミング教育が必修化されるといふことでプログラミング的思考を育む実践を行いました。今回、中学校の理科の実験でプログラミングを用いて計測を行う実践が紹介され、小学校でのプログラミングの素地づくりの大切さに改めて気付かされました。



助言・講評をされる森先生

理科

自然現象を主体的、協働的に追究し、
豊かな心と創造力を培う理科学習

令和元年度

愛知県小中学校理科教育研究会

期 日 八月六日(火)

場 所 幸田町民会館

参加者 二百六十二名

講演「新学習指導要領で授業は

変わる？変わらない？」

講師 常葉大学大学院

初等教育高度実践研究科 教授

田代 直幸 先生

講演会では、平成二十九年年度に告示された学習指導要領で、理科の授業をどのように変えていかなければならないかを

ご示唆いただきました。今回の改訂のキーワードである「主体的・対話的で深い学

び」の中の、深い学びとはどのようなものか、参加者同士で自分の経験をもとに

話し合うなど、主体的に参加できるように

にご講演いただきました。また、子ども

たちが自らの道具として「見方・考え方」

を使えるようにメタ認知させていくことが

大切だと教えていただきました。さら

に、理科の見方を子どもたちが働かせら

れるように、分かりやすい言葉に換えて

提示することも重要な教師支援であると

お話しいただきました。参加された先生

方からは、「これから何を意識して授業づ

くりをすれ

ばよいのか

はつきりし

た」などの

声をいただ

きました。



講演される田代直幸先生

は、小学校
下学年、小
学科会で

できました。

研究発表会を終えて

幸田・南部中 鴨下 敦

助言者の先生、幸田町理科部の先生方に、教材研究や単元構想の段階から授業実践、発表の原稿づくりまで、ずっとご支援、ご助言をいただきました。実践を通して、教材研究の仕方、単元構想の作り方、子どもの思考の流れなどを学ぶことができました。また、理科の授業を通して、子どもを伸ばしていくこととする先生方がたくさんいらっしゃることに気付き、つながることができたことが財産です。これからも夏季研修会で提案された各地区の先生方の実践や協議内容を、自分の授業づくりに生かしていきたいと思えます。

生活科

新たな価値を創出し、

生活の中に生かす子ども

〜子どもの思いや願いの実現をめざし、

学び続ける授業〜

令和元年度

愛知県生活科教育研究大会

期日 八月六日(火)

場所 豊田市福祉センター

参加者 三百名

講演 「確かな資質・能力の育成に

向けた学習指導と評価」

講師 文部科学省初等中等教育局

教育課程調査官

渋谷 一典 氏

三つの分科会では、新テーマを基に、新たな価値の創出を視点とした質の高いレポートが提案され、参加者からは夏休み以降の実践で参考になるという多くの声を聞くことができました。助言者の先生方からは、提案実践の具体的な場面を取り上げながら、子どもたちの思いや願いを実現するための実践について、今後、深めていく上での貴重なご助言をいただくことができました。

講演会では、確かな資質・能力の育成に向けた学習指導と評価について、渋谷調査官が生活科の目標とからめながら、新たな観点に沿って、講演をしてくださいました。



講演される渋谷一典先生

提案を終えて

豊田・四郷小 伊藤 紘平

今回は、身近な人との交流を通して、自分の成長に気付くことをねらいとした実践を提案しました。愛知教育大学の加納先生にご助言をいただいたことで、対象との関わりを通して自分の変化に気付くことも新たな価値の創出であることが分かり、自分の実践の意味をとらえ直すことができました。また、生活の中に生かすことが大切だと学びました。

今後は、提案を通して学んだことを生かし、新たな価値を生み出すためにはどのようにカリキュラムを組むとよいかを考えていきたいと思えます。

今後の研究会のご案内

*愛知県社会科教育研究大会

10月23日(水) 安城市立安城北中学校
安城中部小学校

*愛知県学校視聴覚教育研究大会

10月30日(水) 豊橋市立三川南小学校
二川中学校

*第33回東海北陸地区へき地・複式・

小規模学校 教育研究大会愛知大会

第57回愛知県へき地・複式・

小規模学校 教育研究大会

10月31日(木) 岡崎市民会館

11月1日(金) 豊田市立花山小学校
岡崎市立宮崎小学校

南知多町立日間賀小学校

日間賀中学校

*愛知県中学校技術・家庭科研究大会

西尾大会

11月8日(金) 西尾市立西尾中学校

*愛知県生徒指導研究大会岡崎大会

11月12日(火) 岡崎市民会館

*愛知県統計教育研究発表会・講演会

11月27日(水) 愛知県図書館



編集後記

野球の大会以外で、「○○甲子園」と呼ばれるものが幾つかあります。「俳句甲子園」も、その中の一つです。この大会は、自分たちが作った句のよさや、相手の句のものの足りなさ等を討論し合い、優劣を競うものです。いかに、自分の主張を論理的に構築し、相手の主張を論破するか。高校生が思考を巡らせ、自分の考えを熱く語る姿は、大変印象的でした。

今夏も、各分会・委員会による研修会が三河各地で開催されました。新学習指導要領実施に備えた先行的な実践報告を基に、熱心な研究協議が行われました。参加された会員からも、有意義な研修会であったという多くの声を聞くことができました。今年の実りをより豊かにするための着実な営みの場となりました。

今号は、こうした夏の研修会の概要を報告し、記録としてまとめました。秋から年度末のまともに向けて、さらなる充実への足がかりになることを期待します。

◆表紙の写真◆

「レッツ、ダンス！命！」

撮影 豊川市立千両小学校

岩村 英幸 先生

◆カット◆

愛知教育大学附属特別支援学校

児嶋 佑紀 先生